

【史料紹介】

長崎精得館ボードイン受業生名簿

「鵬氏門徒 伝習人名前 姓名名簿」

豆田 誠路



ボードイン（長崎大学附属図書館蔵）

本稿は、平成二十九年（二〇一七）一月から三月にかけて、碧南市藤井達吉現代美術館で開催した「碧南の医人展―医聖徳本・近藤坦平一族を中心に―」を契機として、開催期間中に急遽購入された「近藤坦平旧蔵資料」のなかから、重要と思われる史料を掲載することによって、医史学並びに地域史の参考に資することを目的とする。

本稿で取り上げる「鵬氏門徒 伝習人名前 姓名名簿」一冊（慶応二年（一八六六）頃、近藤坦平筆）は、わが国最初の洋式病院・長崎精得館の教頭であるボードインに学んだ受業生の名簿で、これを記した近藤坦平をはじめ二六三名の姓名が記される。当時日本で最先端のオランダ医学に学んだ生徒の名簿であり、九州の諸藩を中心に全国から長崎に学んだ痕をみることができる。

ここで、本稿の主題に関わる名称・人物について説明しておく。

まず精得館とは、文久元年八月十六日（一八六一一年九月二十日）に幕府の長崎奉行所が開院させた、わが国最初の洋式病院・養生所のことである。隣接した医学所と共に、長崎の小島郷字佐古（現長崎市西小島一丁目）に設立され、慶応元年五月十七日（一八六五年六月十日）頃に改称した名が精得館である。その後、明治維新を契機に明治元年（一八六八）に長崎府医学校、その翌年には長崎県病院医学校と改まり、明治四年（一八七一）から文部省に移管されて長崎医学校となっている。

次に、ボードインとは、長崎養生所（精得館）の二代目教頭であるアントニウス・ボードイン（Antonius Franciscus Baudin, 1822-1886）のことである。安政四年（一八五七）にポンペ（Johannes Lydius Catherinus Pompe van Meerdervoort, 1829-1908）が始めた医学伝習は、養生所・医学所の設立へと発展し、ポンペは文久二年九月にオランダへ帰国の途に就いた。彼に替わり来任したのが、ユトレヒトの陸軍軍医学校教授一等軍医のボードインであった。ボードインは、文久二年閏八月に着任し、養生所並びに医学所で教鞭をとり、生理学・解剖学・眼科学の講義を主として講義し、眼科手術室を養生所に設け、分析究理所を附設した。そして慶応二年（一八六六）十二月まで長崎に滞在した。なお、後任の三代目教頭マンスフェルト（Constant George van Mansvelt, 1832-1912）は、慶応二年七月に長崎に渡来し、精得館に勤務した（正式には同年九月二十五日に幕府と契約を結んだとみられている）。以上は、主に中西啓「長崎医学の百年」〔長崎医学百年史〕長崎大学医学部、一九六一年）に拠る。

最後に、筆者の近藤坦平（一八四四〜一九二九）についてみておきたい。坦平は、三河国碧海郡鷲塚村（現愛知県



近藤坦平（碧南市蔵）

碧南市）出身の洋方医である。号は碧津。文久二年（一八六二）九月、数え十九歳の時に江戸で松本良順の門下となり、医学所に入門し、元治元年（一八六四）に松本良順の長男銈太郎が幕命により長崎のボードインのもとに行くことを知り、彼に従うことを許され、ボードインに師事したといわれる。その後、慶応二年（一八六六）十月に帰郷したとみられ（後述）、郷里で明治五年（一八七二）に洋式の仮診療所「洋々堂」を開き（のち「洋々医館」と改称）、同時に私設医学校蜜峰義塾を創設して、地域医療に生涯を捧げた。なお、坦平の娘婿に東京帝国大学教授を務めた外科医の近藤次繁がいる。

【史料解題】

- | | | |
|---|-------|------------------------|
| 1 | 名称・員数 | 「鵬氏門徒 伝習人名前 姓名名簿」一冊 |
| 2 | 筆者 | 近藤坦平 |
| 3 | 作成時期 | 江戸時代末期（推定・慶応二年（一八六六）頃） |

本史料は紙本墨書（鉛筆後記）で、表紙は縦二二・二×横一六・四cmを計測し、二十七丁が綴じ込まれる。一面（半丁）には各五名（59に一名加筆、合計二六三名）の姓名の記載があり、誰の門人か、どの藩に属する家来か（あるいは役医師などの役職名）が記される。また本文には、朱色の点のほか、地名やその人物が死去したことを記す鉛筆の追記がある。

表紙には「鵬氏門徒 伝習人名前 姓名名簿 寅八月迄」とある。「鵬氏」とはボードインのことである²。寅年は近藤坦平の長崎滞在時期より慶応二年（一八六六）にあたり、表紙からは慶応二年八月までの内容が記されていることになる。また裏表紙には「藤碧津」の墨書と、「実皮 近藤姓蔵」の朱筆があり、近藤坦平本人の筆で、自身で永らく所持していたことが分かる。

【文書群の概要】

本史料を含む文書群は、歴史系企画展「碧南の医人展」開催中の平成二十九年（二〇一七）二月に、県内の古書店より購入したものである（「近藤坦平旧蔵資料」）。近藤坦平や三男の乾郎に宛てた書簡、坦平が各所から受けた感謝状、坦平の村葬の折の弔辞など、近藤坦平や乾郎の旧蔵とみられる六百点余りの文書群であり（未整理）、本史料もこのなかに含まれていた。よって、本史料の来歴としても、近藤坦平旧蔵のものともみてよい。

ちなみに、この文書群のなかから、近藤坦平自筆の奉職履歴が確認された（「届」明治十七年二月、碧海郡長宛）。ここには「慶応元年二月ヨリ同二年十一月迄長崎病院当直医勤務」とあり、医学所で学びながら、養生所（精得館）



紹介史料 裏表紙



紹介史料（碧南市蔵）表紙



長崎のパノラマ
(長崎大学附属図書館蔵)
画像右下に見える校舎が精得館

で当直医として実務も学んでいたことが確認できる(但し、慶応二年十月とみられる帰郷時期と一か月ずれが生じる)。

【史料紹介の目的】

本史料は、幕末長崎に設立されたわが国初の洋式病院・医学校である長崎養生所(精得館)のうち、二代目教頭ボードインに学んだ受業生二六三名の名簿である。このなかには、相良知安や長与専斎らよく知られた人物がいる一方で、詳しい経歴を確認しえない人物が多かった。本稿では、武内博編著『日本洋学人名事典』(柏書房、一九九四年)や、国立歴史民俗博物館データベース「地域蘭学者門人帳人名データベース」(二〇〇六年三月公開)、それ以外の文献から、人物に関し若干の補足を試みた。

この史料紹介を通して、幕末長崎でボードインに師事した全国二六三名の人物に関する情報が深化するとともに、近藤坦平のような郷里に戻った洋方医、あるいは中央政府に登用された医師など、幕末から明治・大正にかけて生きた医人を知る基礎資料となれば幸いである。

(註)

- 1 詳しくは、『歴史系企画展 碧南の医人展(碧南市教育委員会文化財課、二〇一七年) 参照。
- 2 近藤坦平が記したボードインの講義録には「和蘭 第一等医官鵬度英氏 講述」「和蘭 抱道英先生 口述」とある(一文献、出品番号四九・五〇・五二・五四)。
- 3 近藤坦平の帰郷時期については、不明確な部分がある。『碧南市医師会史』(碧南市医師会、一九六八年、五二頁)では、明治元年(一八六八)としている。これに対し田崎哲郎氏は、坦平と行動を共にした親族の宇都野碩遵の父龍碩が、遠州浜名郡境宿村の跡見玄山に宛てた年未詳三月二十四日付け書簡を取り上げ、この内容から近藤坦平は慶応二年十月に帰国して開業したとしている。本稿では、田崎説に拠り坦平は慶応二年十月に帰郷したものとみておきたい。
なお、田崎氏が取り上げた書簡の一部を引用しておく(跡見玄山宛宇都野龍碩書簡 慶応三年三月二十四日付け、一筆者加筆。
(前略) 碩遵儀、御深切御尋被下忝存候。同人儀、寄陽行同行之両徒兄弟共ニは昨冬十月帰国仕候。(中略) 借亦駕塚近藤介石事昨冬宿許ニ而開業いたし候処、此節門前市を成んとする斗り之流行ニ御座候。眼療杯奇々妙々之術有之候。過月拙者も内障眼針術一見いたし候処、実二目を驚し申候。本朝の専門眼家の及ぶ所ニあらず与存し候。(中略)

宇都野龍石

三月廿四日

跡見玄山様 青林下(以下略)

(田崎哲郎「在村蘭方医の二様相 ―三河国額田郡本宿村宇都野氏の場合―」初出『愛知大学文学論叢』六九(一九八二年)、のち『在村の蘭学』(名著出版、一九八五年)第三章に再録)
これによれば、宇都野碩遵と同行した近藤介石(＝坦平)が慶応二年十月に帰郷し、同年冬に早速開業、郷里で繁盛している様子が窺える。特に、ボードイン直伝の眼病治療には親族からみて目を見張るものがあるようである。

(表紙)

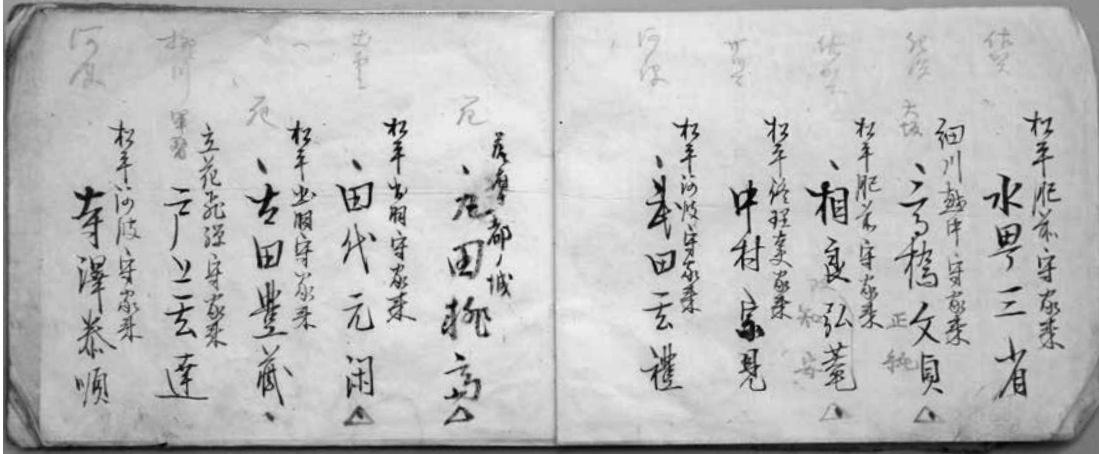


(1オ)



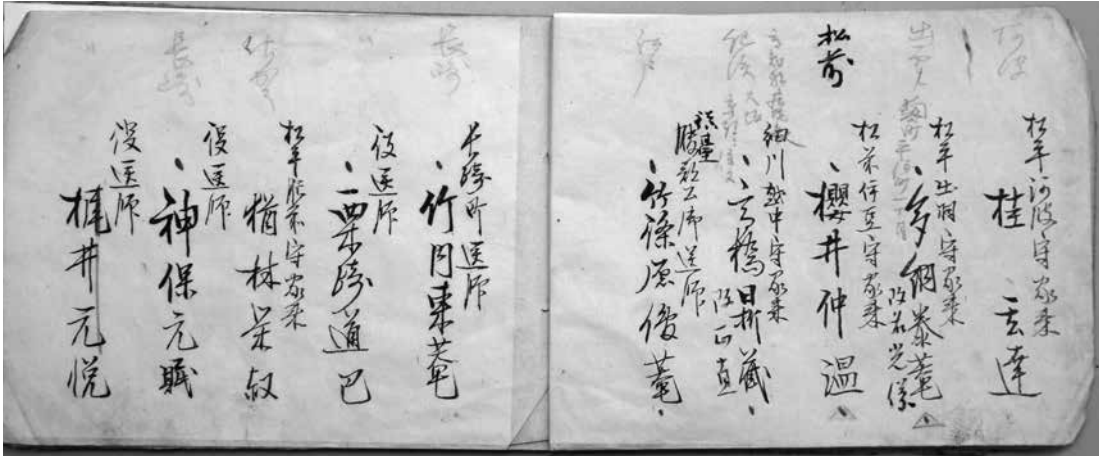
(1ウ)

(2オ)



(2ウ)

(3オ)



(4ウ)

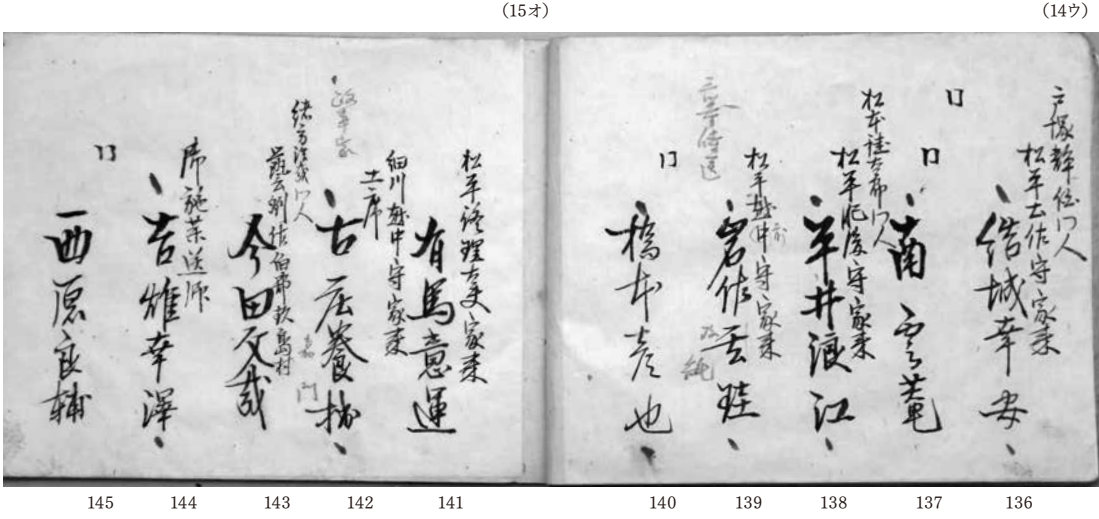
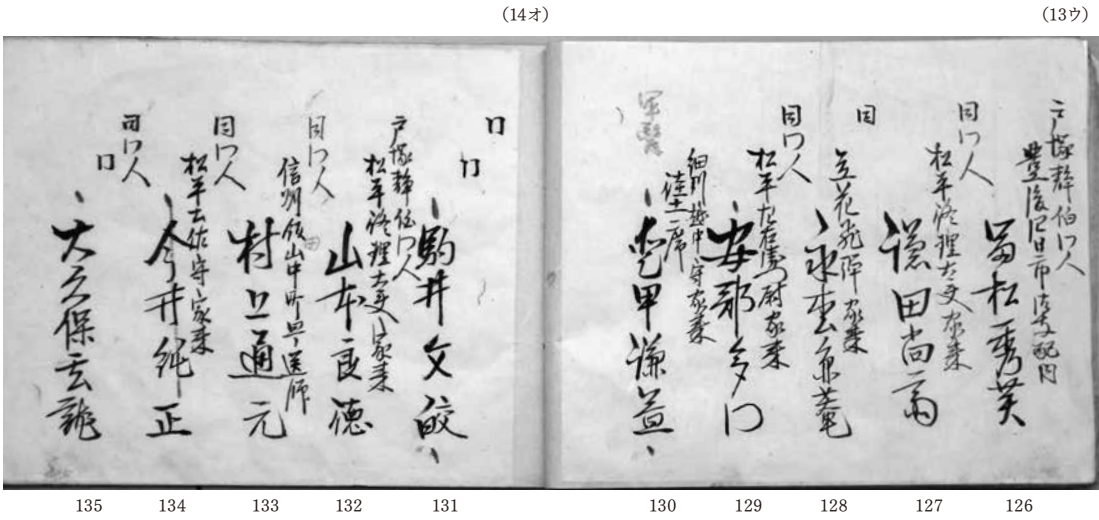
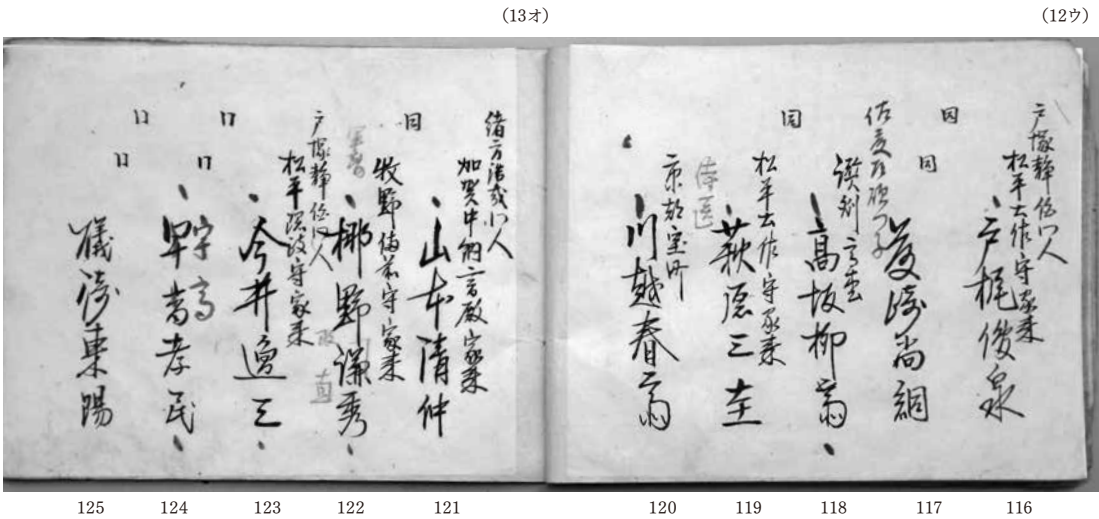
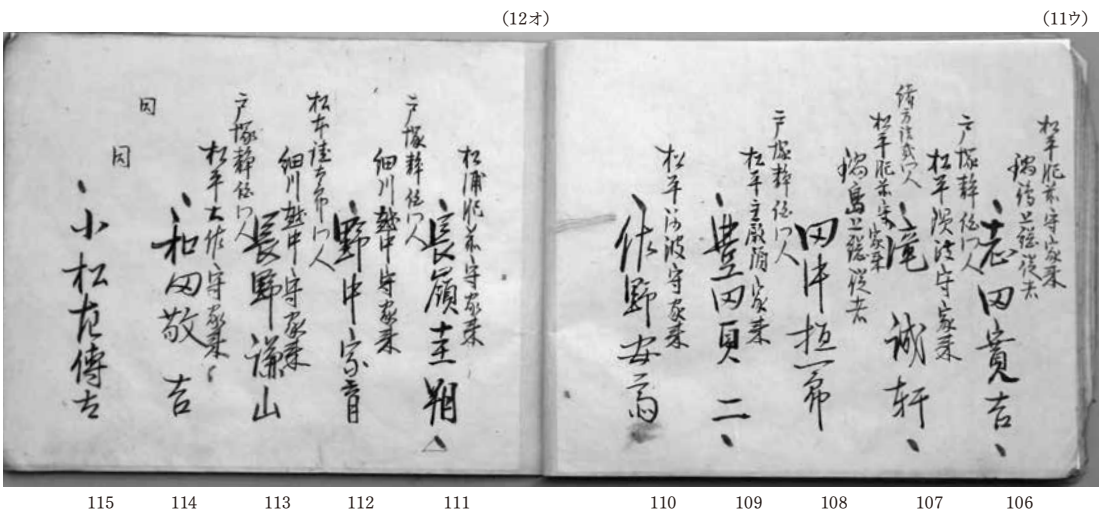
(5才)

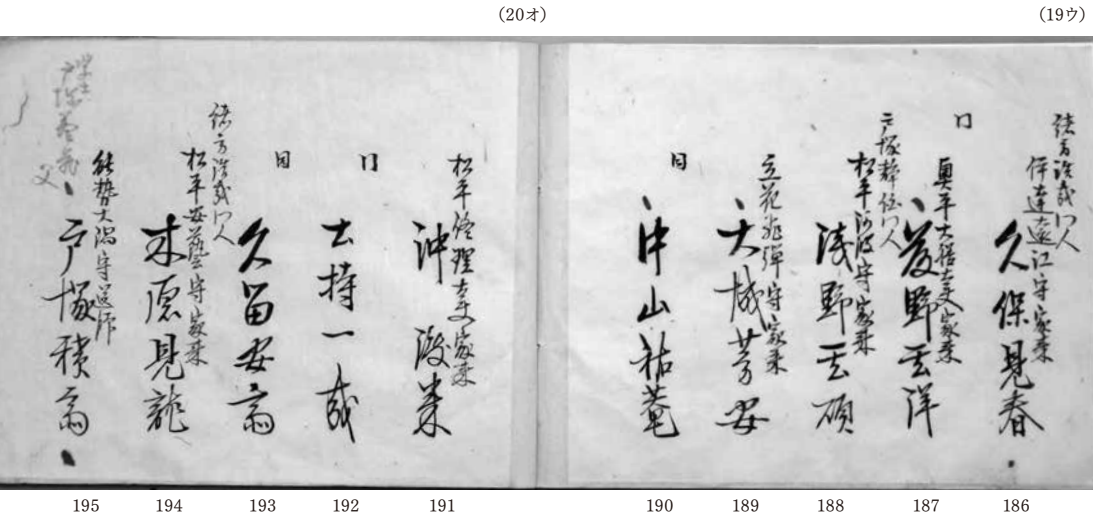
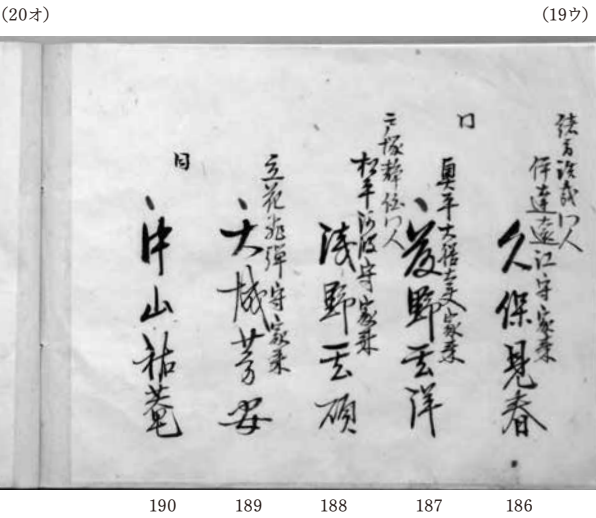
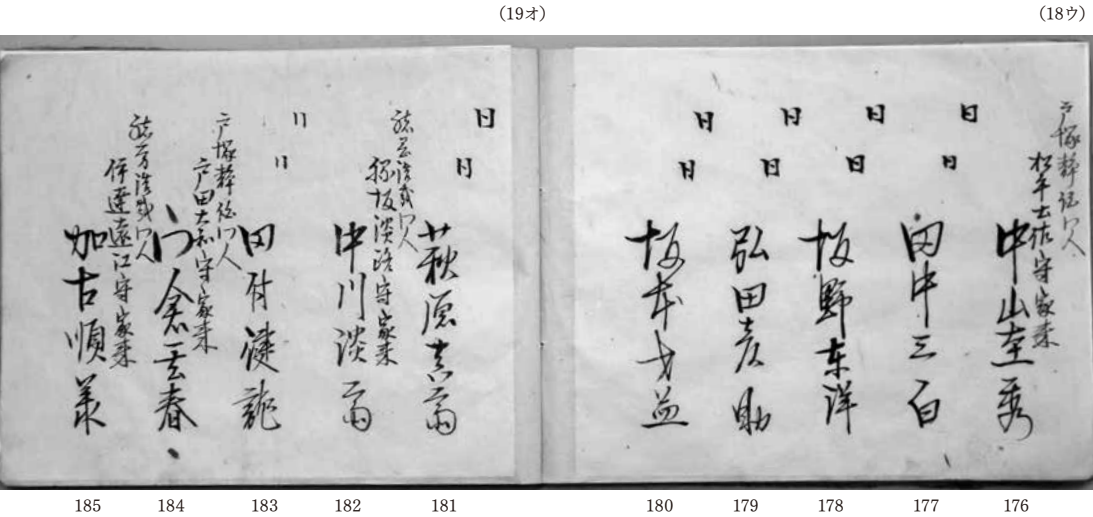
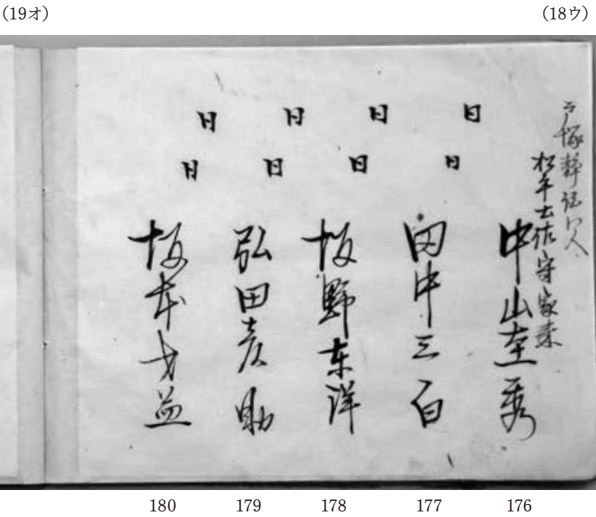
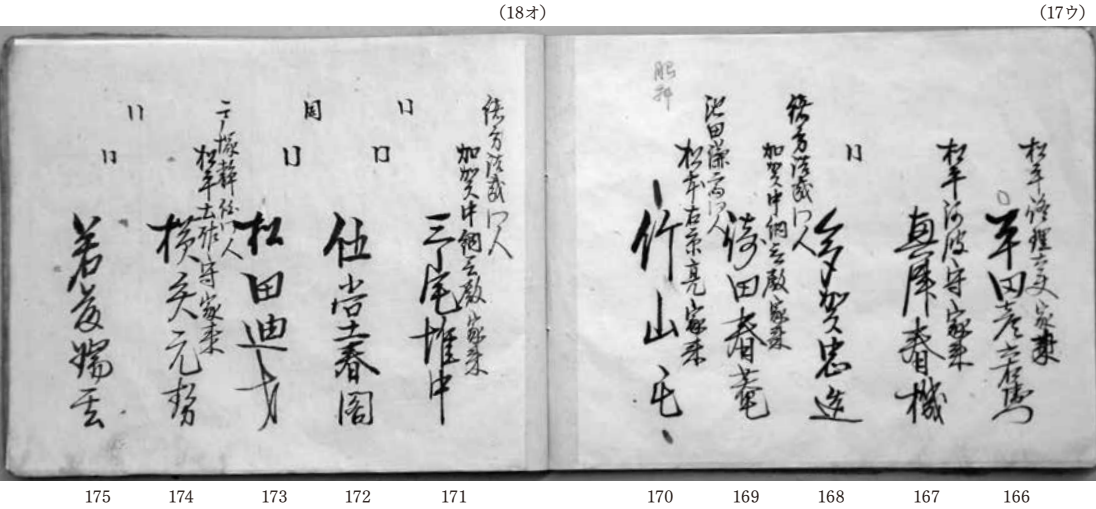
(6才)

(7ウ)

(8才)

(8ウ)





(23ウ)

仍方溪武門人
松平中督左補家康

佐野俊達

日

後部 勘

右丹波守家康

長興寺主白

松平備前守家康

長濃古輔

八木祖右衛門分利
橘朝次郎大門口連

蓬萊龜三進

壬午大領頭候介
勝別如左第共古所村連

山田良齊

有馬中務少輔家康

筑後守家康
宮崎王守幸助小月岡

中野淳良

相良柳菫

右丹波守家康

右丹波守家康

相良柳菫

松平龍輝守家康

酒造印三希

(24才)

(26ウ)	松年松年守家奉 山本浩堂	日 如友謙山	日 山陽玄孝	日 名作出衆	松年松年守家奉 早田黃子	松年 士村松年守家奉 待山謙子	同友備後守家奉 作友松齡	(27才)
	256	257	258	259	260	261	262	

表「鵬氏門徒伝習人名前姓名簿」受業生一覧表

番号	姓名	師匠	記載	肩書	（藩名）	師匠	塾名	入門年月日	西暦	出典	備考
1	吉雄 圭斎		養生所御用医師			松本良順				A	1822・1894。明治元年精得館執事、熊本病院長。日向都城。万延元（1860）年冬長崎遊学。
2	山下 玄岱		松平修理大夫家来			松本良順				A	肥前長崎。
3	郡 豊		役医師			松本良順				A	1830。万延元（1860）年長崎でボンベ・ポードイン・マンズフェルドに就学。慶応3年6月5日御番医を命じられ長崎より引き取る。（大村藩の医学）
4	藤田 圭甫		大村丹後守家来		大村藩	松本良順	順天堂	（修業四ヶ年） 嘉永6年 （万延元年4月）	1853 （1860）	A	「千葉県税務署の吏と聞く」（池田玄泰氏談、B文献） 1835・1891。長崎病院塾頭、大阪医学校校長。 1836・1906。初代文部省医務局長。 1843・1902。外交官・貴族院議員。 藩医学校教授。 1841・1871。日向都城。北越・箱館従軍。 1837・1895。私立灘町病院開設。
5	鹿間 道球		長崎町医師			伊東玄朴	象先堂	安政3年10月27日	1856	B	「たまかしは」（1893年）編輯兼発行者。
6	水町 三省		松平肥前守家来								1807・1880。私立賛成病院長。
7	高橋 文貞〔正純〕		細川越中守家来								1840・1883。明治3年松江藩医学校少教授兼病院長。
8	相良 弘庵〔知安〕		松平肥前守家来			松本良順				A	1843・1921。岡山に近代西洋医学の導入に努める。服部公 small>small 長崎奉行服部長門守常純。
9	中村 宗見〔博愛〕		松平修理大夫家来			松本良順					1841・1910。シールト門人檜林宗建の長男。
10	武田 玄礼		松平阿波守家来								
11	丸田 桃斎		薩摩都 small>small 城			松本良順		万延2年春登門	1861	A	
12	田代 元閑〔需平〕		松平出羽守家来			松本良順		文久4年2月	1864	A C	
13	太田 豊蔵		立花飛騨守家来			松本良順	時習堂				
14	戸上 玄達		松平阿波守家来								
15	寺沢 泰順		松平阿波守家来								
16	桂 玄達		松平阿波守家来								
17	多納 泰庵〔光儀〕		松平出羽守家来								
18	櫻井 仲温		松前伊豆守家来			松本良順				A	
19	高橋 鼎蔵〔正直〕		細川越中守家来								
20	篠原 俊庵		服部公御医師								
21	竹内 東庵		長崎町医師			松本良順				A	
22	栗崎 道巴		役医師								
23	檜 林 栄叔		松平肥前守家来			松本良順				A	
24	神保 元賦		役医師								
25	梶井 元悦		役医師								
26	木村 良逸		役医師								
27	竹内 万松		竹内清十郎弟								
28	堀内 三盛		細川越中守家来			土生玄碩	迎翠堂	安政6年4月8日	1859	F	入門歴情報は「堀田三盛」（F文献）の情報。
29	堀内 三怡		細川越中守家来								
30	松浦 玄嶮		立花飛騨守家来			熊本藩					
31	石橋 養元		有馬中務大夫家来			久留米藩					養嗣子・石橋忍月（近代文芸批評創始者）。
32	小野 済三		有馬中務大夫家来			久留米藩					
33	安元 勇		有馬中務大夫家来			宇和島藩					
34	岡村 諒亭		伊達遠江守家来			佐賀藩					
35	副島 謙堂		松平肥前守家来			上田藩					
36	辰野 一郎		松平伊賀守家来			掛川藩					
37	戸塚 隆庵		太田総次郎家来			松江藩					
38	熊谷 亮海		松平出羽守家来								

【凡例】□は判読できない文字、（ ）は正しい文字、「」は別名や補足を示す。

番号	姓名	師匠	記載	肩書	（藩名）	師匠	塾名	入門年月日	西暦	出典	備考
39	山口 清助		上総朝夷村								
40	菅浪 敬三		備後箱田村								
41	内藤 文斎		大坂梶木町町医師								
42	上石 源作		戸津上総介家来								
43	北尾 見輪〔漸一郎〕		松平出羽守家来			緒方洪庵	適塾	文久元年10月9日入門	1861	E	？・1928。北尾徳庵伴。松江藩医学校教授兼病院長。養嗣子・北尾次郎（物理学者）。
44	近藤 介石〔坦平〕		水野出羽守家来			松本良順		文久2年9月14日入門	1862	A	1844・1929。本姓名録筆者。洋々医館・蜜蜂義塾創設。
45	近藤 原賢		水野出羽守家来			松本良順		文久2年9月14日入門	1862	A	？・？。近藤坦平親戚。
46	宇都野 碩順（遵）		柴田越前守家来			松本良順		文久2年9月14日入門	1862	A	1846・1916。近藤坦平親戚。三河国額田郡本宿村。（姓名録鉛筆加筆）「緒方惟準ノ妹ヲ娶ル」。
47	三澤 揆一〔揆一郎〕		江戸本所町医師 良益梓			松本良順		元治元年秋入門	1864	A	1844・？。開拓使御用掛から幌内炭鉱開発に従事。
48	山内 徳三郎		大坂御徒士徳右衛門三男					安政4年5月入門	1857	B	1844・1915。仙台高須賀。『普氏心臓病論』訳述。
49	目澤 融徳		南部美濃守家来			伊東玄朴	象先堂	文久4年正月19日入門	1864	E	
50	横山 浅謙〔謙介〕		江戸浅草町医師			緒方洪庵	適塾	文久3年4月1日入門	1863	E	
51	西川 元良		酒井左衛門尉家来								
52	進藤 整斎		松平加賀守家来 長大隅守								
53	明石 格庵		緒方浩哉								
54	村瀬 三英		大村丹後守家来								
55	原田 水山		松平美濃守家来								
56	武谷 椋山〔俊三〕		松平美濃守家来 原田□之助								
57	江口 梅亭〔保定〕		松平肥前守家老 村田若狭								
58	西村 兵輔		松本良順家来								
59 0	高桑 道準〔實〕										
59 1	橋本 琢庵〔綱常〕										
60	大井 量平		松本良順家来								
61	平塚 順庵		大岡兵庫頭家来 上総勝浦								
62	中村 宗連		牧野備前守家来								
63	立橋 楨祐		但州淡寄神主 立橋加賀守弟								
64	柳 隆元										
65	原田 道順										
66	牟田□文亮										
67	草野 多伸										
68	村上 順栄										
69	三原 左仲										
70	吉田 良済										
71	神辺 隆庵										

番号	姓名	師匠	記載	肩書	（藩名）	師匠	塾名	入門年月日	西暦	出典	備考
146	鳥巢春斎		松平肥前守家来	佐賀藩							
145	西原良輔		御施薬医師							A	長崎。
144	吉雄幸沢		御施薬医師		松本良順						1840・1915。明治期の官僚、政治家。
143	今田文哉	緒方浩哉	芸州佐伯郡玖島村								1840・1915。明治期の官僚、政治家。
142	古庄〔允〕養拙〔嘉門〕		松平越中守家来 土席	熊本藩							1836・1912。福井藩医、明治天皇侍医。
141	橋本彦連		松平修理大夫家来	薩摩藩						A	1841・1878。ボードイン・マンスフェルドに師事。
140	岩佐玄珪〔純〕		松平越中〔前〕守家来	福井藩	松本良順			万延元年秋委費	1860		1836・1912。福井藩医、明治天皇侍医。
139	半井浪江	松本銈太郎	松平肥後守家来	会津藩							薩摩脱藩中井弘と慶応2年渡英、翌年帰国。
138	南雲庵	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩							1834・1872。長岡謙吉。海援隊書記。
137	結城幸安	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩							
136	大久保玄龍	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩							
135	今井純正	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩							
134	村上通元	戸塚静伯	信州飯山中町医師								
133	山本良徳	戸塚静伯	松平修理大夫家来 徒土席	薩摩藩							
132	駒井文岐	戸塚静伯	細川越中守家来 徒土席	熊本藩	松本良順					A	
130	愛甲謙益	戸塚静伯	細川越中守家来 徒土席	熊本藩							
129	安部多門	戸塚静伯	松平左衛門尉家来	豊後府内藩							
128	永松円庵	戸塚静伯	立花飛騨家来	柳河藩							
127	謙田尚斎	戸塚静伯	松平修理大夫家来	薩摩藩							
126	富松秀英	戸塚静伯	豊後四日市御支配内							I	私立会社病院回春舎医員。
125	磯崎東陽	戸塚静伯	松平隠岐守家来	松山藩	〔華岡書洲〕	春林軒		安政2年7月21日	1855		私立会社病院回春舎医員。
124	宇高孝民〔正之〕	戸塚静伯	松平隠岐守家来	松山藩							長岡藩医、長岡病院初代院長。
123	今井逸三〔鑒〕	戸塚静伯	松平隠岐守家来	長岡藩	〔緒方洪庵〕	適塾		文久4年2月29日入門	1864	E H E	1829。加賀金沢出身。28歳〔入門時〕。
122	柳野鎌秀〔直〕	緒方浩哉	牧野備前守家来								
121	山本清仲	緒方浩哉	加賀中納言殿家来	加賀藩	緒方洪庵	適塾		嘉永2年5月28日入塾	1849	E	1829。加賀金沢出身。28歳〔入門時〕。
120	川越春斎	戸塚静伯	京都室町	土佐藩	緒方洪庵	適塾		安政6年2月25日	1859	E	1840・1894。ドイツ留学、明治天皇内親王侍医。
119	萩原三圭	佐藤道碩	松平土佐守家来								
118	高坂柳斎	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩							
117	藤崎尚綱	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩							
116	戸梶俊泉	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩							
115	小松左伝太	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						E	土州高知紺屋町。和田広潤弟。（G文獻）
114	和田敬吉	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						G H A A A	肥後山鹿。
113	長野謙山	松本銈太郎	細川越中守家来	熊本藩				文久元年春入門	1861		
112	野中宗育	戸塚静伯	細川越中守家来	熊本藩				安政6年2月朔日	1859		
111	長嶺圭朔	戸塚静伯	松浦肥前守家来	平戸藩	松本良順			文久元年4月9日入門	1861		
110	佐野安斎	戸塚静伯	松平阿波守家来	徳島藩							
109	豊田貞二	戸塚静伯	松平主殿頭家来	島原藩							

番号	姓名	師匠	記載	肩書	（藩名）	師匠	塾名	入門年月日	西暦	出典	備考
108	田中恒一郎	緒方浩哉	松平肥前守家来 鍋島上総従者	佐賀藩武雄領							
107	滝誠軒	戸塚静伯	松平肥前守家来 鍋島上総従者	松山藩							
106	老田寛吉	緒方浩哉	松平肥前守家来 鍋島上総従者	佐賀藩武雄領							島津元丸Ⅱ久寛〔都城領主〕。
105	待木桃春	戸塚静伯	薩州島津元丸従者	柳河藩							
104	長田元隆	戸塚静伯	立花飛騨守〔家〕来	薩摩藩							
103	坂元迷斎	竹内玄庵	宗対馬守家来	対馬藩							明治元年長崎府医学校薬局掛。
102	鹿毛晋哉	竹内玄庵	肥前深堀	熊本藩							1840・1911。日向国北諸県郡高城。
101	深町春栄	竹内玄庵	細川越中守家来	熊本藩							
100	伊々木文澤	竹内玄庵	松平修理大夫家来	薩摩藩							
99	永昌春齡	緒方浩哉	松平左衛門尉家来	豊後府内藩							
98	後藤良〔	緒方浩哉	松平左衛門尉家来	豊後府内藩							
97	大城道哲	緒方浩哉	松平相模守家来	鳥取藩							
96	永見立斎	緒方浩哉	松平相模守家来	鳥取藩							
95	芝三也	竹内玄庵	伊達遠江守家来	宇和島藩	緒方郁蔵	独笑軒塾		文久3年仲冬28日入塾	1863	C G	慶応2年〔1866〕退身 後年開業医。
94	谷哲斎	緒方浩哉	伊達遠江守家来	宇和島藩	緒方郁蔵	独笑軒塾		文久3年3月25日入塾	1863		
93	島星海	松本銈太郎	有馬兵庫頭家来	下野吹上藩							
92	前川昌造	佐藤道碩	松平阿波守家来	徳島藩							
91	西春涛		松平肥前守家来 多久與兵衛従者	佐賀藩多久領	緒方洪庵	適塾		安政6年3月11日	1859	E	明治元年長崎府医学校当直医。
90	三根道逸	緒方浩哉	松平肥前守家来 多久與兵衛従者	佐賀藩多久領							
89	野田律斎	緒方浩哉	伊達遠江守家来	宇和島藩							宇和島藩医学寮・種痘館医学掛。
88	山口玄哲		松平肥前守家来 鍋島河内従者	佐賀藩							鍋島河内Ⅱ直嵩〔佐賀藩国老〕。
87	前田弘安〔正名〕		松平修理大夫家来	薩摩藩							1850・1921。農商務省、下野し産業運動指導者。
86	寺原雄弘	松平修理大夫家来	松平修理大夫家来 土分並	薩摩藩							
85	竹下静安	松平修理大夫家来	松平肥前守家来	佐賀藩							
84	宇都宮徠	木下飛騨守家来	松平肥前守家来	豊後日出藩							
83	馬島瑞謙	松本銈太郎	松平肥後守家来	会津藩							1848・1893。改名小松済治。
82	大蔵祥雲	緒方浩哉	天草富岡町医師	柳河藩							
81	行徳元穆	有馬中務	天草飛騨守家来	久留米藩							
80	栗崎道意	栗崎道巴父	松平越前守家来	福井藩	松本良順						
79	三崎宗玄〔囀輔〕	松平越前守家来	松平越前守家来	福井藩	土生玄碩	迎翠堂		万延元年4月5日入門	1860	F	1847・1873。京都市療病院長・医学校長。
78	半井元瑞〔澄〕	松平越前守家来	松平越前守家来	福井藩						A	1846・1931。若越医学会名誉会員。
77	大城□	緒方浩哉	天草富岡町医師	柳河藩							明治2年長崎府医学校種痘懸。
76	馬島瑞謙	松本銈太郎	松平肥後守家来	会津藩							明治2年長崎府医学校種痘懸。
75	井福良安	松平肥後守家来	松平肥後守家来	会津藩							1839・1894。宇都宮達山弟。私立起廃病院開院。
74	井福良安	松平肥後守家来	松平肥後守家来	会津藩							
73	馬島瑞謙	松本銈太郎	松平肥後守家来	会津藩							
72	井福良安	松平肥後守家来	松平肥後守家来	会津藩							

番号	姓名	師匠	記載	肩書	師匠	塾名	入門年月日	西暦	出典	備考
188	浅野玄碩	戸塚静伯	松平阿波守家来	徳島藩	広瀬元恭	時習堂	慶応4年正月20日入門	1868	C	
189	大城芳安		立花飛騨守家来	柳河藩						
190	中山祐庵		立花飛騨守家来	柳河藩						
191	沖渡□		松平修理大夫家来	薩摩藩						？・1866。加賀藩・近藤岩五郎信成に斬殺される。
192	土持一哉		松平修理大夫家来	薩摩藩						
193	久留安斎		松平修理大夫家来	薩摩藩						
194	木原見龍	緒方浩哉	松平安芸守家来	広島藩						1832・1891。静岡藩病院三等御医師並。
195	戸塚積斎		能勢大隅守（頼之＝長崎奉行）医師							
196	中村連之助		能勢大隅守（頼之＝長崎奉行）医師							
197	田村琢全	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						
198	箕浦龍蔵	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩	緒方郁蔵	独笑軒塾	元治元年11月入門	1864	G	土州江ノ口居士。
199	新村謙益		松平修理大夫家来	薩摩藩						
200	古閑儀一郎		立花飛騨家来	柳河藩						
201	石神良平	戸塚静伯	松平修理大夫家来	薩摩藩						
202	下村橘山	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						
203	坂本有喜	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						
204	松原真斎	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						
205	越智松伯	竹内玄庵	松平安芸守家来	広島藩						
206	麻生庸庵	戸塚静伯	松平中務大輔家来	杵築藩						
207	山崎立生	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						1830・1881。高知藩軍医、高知病院助教。
208	宮尾駿造	緒方浩哉	松平土佐守家来	土佐藩						1807・1880。私立賛成病院長。
209	戸上玄朴〔元達〕		立花飛騨守家来	柳河藩						
210	郡斎		役医師 郡豊左介	柳河藩						
211	有賀義軒		松平越前守家来	福井藩						
212	雪吹貞陵	戸塚静伯	松平越前守家来	福井藩	松本良順		文久3年11月9日入塾	1863	A	1840。〔齡二十四〕（入塾時、A文獻）。
213	堀見文吉	戸塚静伯	松平越前守家来	福井藩						
214	北添立朔	戸塚静伯	松平越前守家来	福井藩						
215	高橋垣道	戸塚静伯	細川越中守家来	熊本藩						
216	右田俊三	緒方浩哉	松平中務大輔家来	杵築藩	緒方洪庵	適塾	文久2年4月3日入門	1862	E	豊後杵築領中園村。
217	吉武桂仙	戸塚静伯	松平肥前守家老 鍋島志摩家来	佐賀藩						明治元年長崎府医学校助教。
218	有田泰仲	戸塚静伯	松平修理大夫家来	薩摩藩						
219	野逸八九安	戸塚静伯	松平修理大夫家来	薩摩藩						
220	田原養柏〔養全〕	戸塚静伯	松平美濃守家来	福岡藩						1850・1890。福岡藩医・眼科医。
221	井上俊造	緒方浩哉	松平土佐守家来	土佐藩						
222	溝口（通）広（乙）丞	緒方浩哉	松平土佐守家来	土佐藩						1828・1909。土佐藩士・志士。
223	久万太郎	緒方浩哉	松平土佐守家来	土佐藩						
224	山崎玄稠		伊達遠江守家来	宇和島藩						
225	小村純益	戸塚静伯	松平修理大夫家来	薩摩藩						
226	佐野俊（雋）達	緒方浩哉	松平中務大輔家来	杵築藩	緒方郁蔵	独笑軒塾	元治元年秋9月入塾	1864	G	1841・1913。大分県病院兼医学校副院長。
227	綾部 勲	緒方浩哉	松平中務大輔家来	杵築藩	緒方洪庵	適塾	（弘化4年3月）	1847	E	豊後国国東郡武蔵郷古市。産科医。

番号	姓名	師匠	記載	肩書	師匠	塾名	入門年月日	西暦	出典	備考
147	松尾仙益	戸塚静伯	松平肥前守家来	佐賀藩						
148	伊藤主一		大久保治右衛門家来							
149	内藤泰吉		細川越中守家来	熊本藩	松本良順		万延元年3月委賛	1860	A	1828・1911。肥後南関。古城医学校設立。
150	寺倉晋吉		細川越中守家来	熊本藩						
151	奥山敬造	緒方浩哉	松平肥前守家来	佐賀藩	慶應義塾		明治3年9月17日	1870	J	1846。？。肥後熊本。慶應義塾入社時「廿五才」。
152	大石良乙		松平安芸守家来	広島藩						1849・79。明治元年長崎府医学校助教。ドイツ留学。
153	野村正益	緒方浩哉	松平安芸守家来	広島藩						
154	野村正南	戸塚静伯	細川越中守家来	熊本藩						
155	土倉瑞仙	緒方浩哉	伊達遠江守家来	宇和島藩						
156	谷村謙淳	戸塚静伯	松平修理大夫家来	薩摩藩						
157	佐藤致格		豊前宇佐郡山本村							
158	松隈安哉		松平肥前守家来	佐賀藩						
159	福地林橘		松平阿波守家来	徳島藩						
160	立木文龍	戸塚静伯	松平阿波守家来	徳島藩						徳島藩蜂須賀家典医。
161	前神大醇		松平孝岐守家来	今治藩						
162	木村遂庵	松本鉅太郎	長崎村小嶋郷	徳島藩						
163	高橋顯正	戸塚静伯	松平阿波守家来	徳島藩						松本良順門下の木村遂庵（長門）と同一人物か。
164	浦上玄湘	戸塚静伯	松平阿波守家来	徳島藩						1841・1920。芳川と改姓。枢密院副議長。
165	平田彦六右衛門		松平修理大夫家来	薩摩藩						
166	興津春機		松平阿波守家来	徳島藩						1843・1902。徳島県初代衛生課長。
167	多賀忠造		松平阿波守家来	徳島藩						
168	崎田春庵	緒方浩哉	加賀中納言殿家来	加賀藩						明治3年藩医学館副教師。
169	竹山屯	池田謙斎	松本右京亮家来	〔越後国〕加賀藩						明治3年藩医学館副教師。
170	三宅惟中	緒方浩哉	加賀中納言殿家来	〔越後国〕加賀藩						1840・1918。新潟県立病院長・新潟医学校長。
171	伍堂春閣〔卓爾〕	緒方浩哉	加賀中納言殿家来	加賀藩	（緒方洪庵）	適塾	文久4年2月5日入門	1864	E	明治元年長崎府医学校薬局掛。
172	松田迪才	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						1844・1918。明治元年長崎府医学校当直医。
173	横矢元勢	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						
174	若藤瑞玄	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						
175	中山圭秀	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						1844。慶應義塾入社時26歳。
176	田中三白	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						
177	坂野東洋	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						
178	弘田彦助	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						
179	坂本才益	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						
180	萩原真斎	戸塚静伯	松平土佐守家来	土佐藩						
181	中川淡斎	緒方浩哉	松平土佐守家来	土佐藩	緒方洪庵	適塾	安政7年3月17日入門	1860	E	1838・1866。名は哲。播州網干余子浜。『眼科要略』編輯。
182	田付健龍	緒方浩哉	臨坂淡路守家来	龍野藩						
183	門倉玄春	戸塚静伯	戸田大和守家来	下野高德藩	伊東玄朴	象先堂	安政6年7月入塾	1859	B	1834・1870。相模国鎌倉郡名瀬村の名主家。
184	加古順承	緒方浩哉	伊達遠江守家来	宇和島藩	緒方郁蔵	独笑軒塾	文久3年3月25日入塾	1863	G	〔賀古順承〕（G文獻）。
185	久保見春	緒方浩哉	伊達遠江守家来	宇和島藩			文久3年9月5日	1863	I	伊予宇和島喜多郡八幡浜。
186	藤野玄洋	緒方浩哉	奥平大膳大夫家来	中津藩						

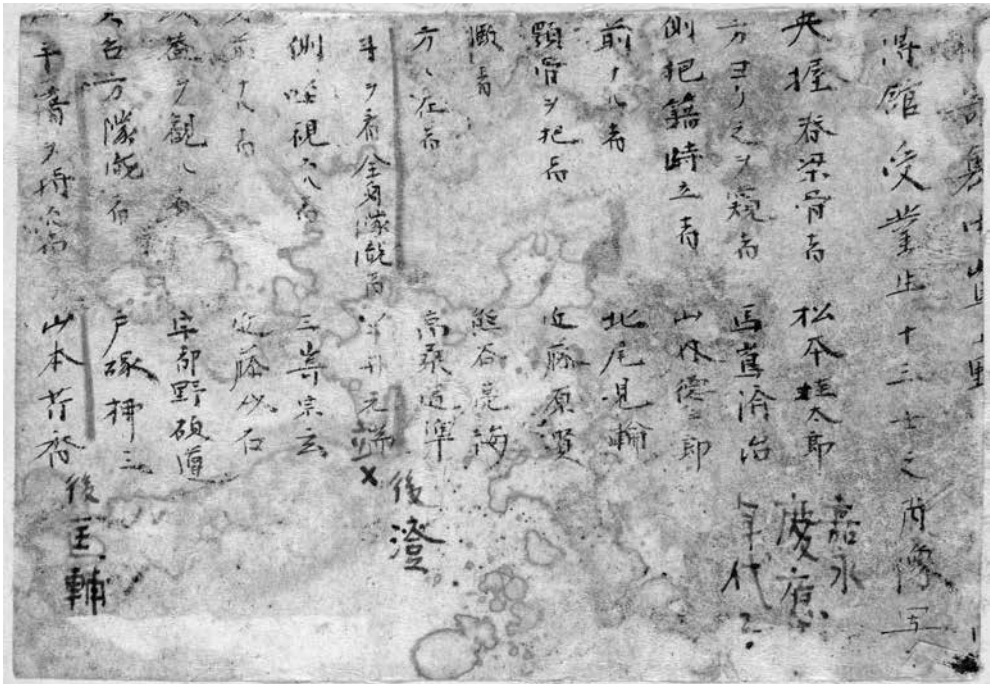
番号	姓名	師匠	肩書		師匠	塾名	入門歴		出典	備考
			記載	(藩名)			入門年月日	西暦		
228	長与専斎		大村丹後守家来	大村藩	緒方洪庵	適塾	嘉永7年6月28日入門	1854	A	1838、1902。精得館学頭医師、長崎府医学校学頭。岩倉使節団に同行、内務省初代衛生局長。
229	長瀬古輔〔時衡〕		松平備前守家来	岡山藩	松本良順		万延元年入門	1860	E	1836、1901。広島鎮台軍医長、軍医監など歴任。
230	蓮菜亀之進		八木但馬守知行所 播州加東郡大門村医							
231	山田良斎		土井大炊頭領分 播州加東郡東古瀬村医							
232	中野淳良		有馬中務大輔家来 高木賢水門人 筑後国上妻郡北河内							
233	相良柳庵〔安定〕		松平肥前守家来	佐賀藩						1828、1874。佐賀藩医、宮内省少待医。
234	草野元養		大村丹後守家来	大村藩	緒方洪庵	適塾	安政4年2月4日入門	1857	E	東京大学医学部別課准講師。
235	渡辺卯三郎		松平飛騨守家来	大聖寺藩	緒方洪庵	適塾	嘉永元年中秋	1848	E	1831、1881。適塾塾頭、藩校薫正館洋学教授。
236	馬島健吉		松平飛騨守家来	大聖寺藩	緒方洪庵	適塾	文久元年10月3日入門	1861	E	1842、1910。長崎府医学校当直医。福井病院長。
237	早川済		内藤備後守家来	延岡藩						
238	真鍋〔辺道一〕	緒方治哉	大坂南久太郎町		緒方洪庵	適塾	安政4年9月29日入門	1857	E	明治2年長崎府医学校種痘懸。
239	藤野良泰		松平美濃守家来	福岡藩	川本幸民				D	1827、1887。藩主侍医。福岡城内の倉密館主任。
240	古川俊平		松平美濃守家来	福岡藩						1834、1907。写真店開業。
241	小松洞栄		松平土佐守家来	土佐藩						
242	浅岡禎祥		松平土佐守家来	土佐藩						
243	森岡健三		松平土佐守家来	土佐藩						
244	木下元俊		諫早豊前守家来	佐賀藩	佐賀藩諫早領					1835、1906。のち安永姓。諫早家侍医、外科医。
245	氏家三良	戸塚静伯	京極佐渡守家来	丸亀藩						
246	中瀬洋斎		松平阿波守領分 板野郡平石村々医	土佐藩						
247	藤崎静庵		松平土佐守家来							
248	遠藤泰三		松平備前守家来 長瀬古輔門人							229 長瀬古輔〔時衡〕門人。
249	有馬善助		松平修理大夫家来	薩摩藩						
250	野村詞水		松平修理大夫家来	薩摩藩						
251	上村到造		松平修理大夫家来	薩摩藩						
252	古賀且庵		松平肥前守家老 村田若狭家来	領	佐賀藩久保田					
253	山本南洋		松平肥前守家老 諫早豊前守家来	佐賀藩	諫早領					
254	古川拙三		大村丹後守家来 長与専斎門人							
255	梶井元道	役医師		福岡藩	松本良順				A	139 岩佐玄珪〔純〕に陪して長崎遊学（A文献）。
256	山本洪堂〔洪輔〕		松平越前守家来	福岡藩			万延元年秋委賛	1860		明治元年長崎府医学校助教。
257	加藤謙山		松平越前守家来	福岡藩						1852、1899。地質学へ転向。東京大学教授。
258	山脇玄寿〔泰助〕		松平越前守家来	福岡藩						
259	岩佐巖		松平越前守家来	福岡藩						
260	前田黄雲		松平修理大夫家来	薩摩藩						
261	待山謙吉		大村丹後守家来	大村藩						
262	佐藤松齡		内藤備後守家来	延岡藩						

- 【出典】
- (A)「登録人名小記」(鈴木要吾「蘭学全盛時代と蘭暦の生涯」東京医事新誌局、1933年。復刻版大空社、1994年)
- (B)「門人姓名録」『育英』(伊東棗「伊東玄朴傳」玄文社、1916年)
- (C)「時習堂弟子籍」(広瀬元恭門人撰)。(京都府医師会医学史編集室編『京都の医学史 資料篇』思文閣出版、1980年)
- (D)「入門生姓名録」(小澤清躬「蘭学者 川本幸民」川本幸民顕彰会、1948年)
- (E)「適々斎塾姓名録」(緒方富雄編著「緒方洪庵 適々斎塾 姓名録」学校教育研究所、1967年)
- (F) 田崎哲郎「迎翠堂門人録」(『実学史研究』1、思文閣出版、1984年)
- (G)「門生姓名」(古西義麿「緒方郁蔵と独笑軒塾」有坂隆道編『日本洋学史の研究IV』創元社、1977年)
- (H)「弟子籍」(鳩居堂塾)。(大村益次郎先生伝記刊行会編『大村益次郎』肇書房、1944年)
- (I)「華岡青洲先生春林軒門人録」(呉秀三「華岡青洲先生及其外科」思文閣、1971年復刻)
- (J) 福澤研究センター編「慶應義塾入社帳」第一巻(慶応義塾、1986年)
- 【参考文献】
- 1・7・8・44・59・0・78・79・119・139・228) 武内博編著『日本洋学人名事典』(柏書房、1994年)
- 7・10・12・17・34・43・44・46・50・56・59・0・78・80・86・119・139・149・167・170・172・184・195・207・209・220・222・226・236・239・240) 平松勘治『長崎遊学者事典』(溪水社、1999年)
- 17)「明治医家列伝第2編」(近藤修之助、1894年)
- 23) 渡辺庫輔『崎陽論攷』(親和銀行済美会、1964年)
- 34) 谷莊吉「字和島藩医・谷世範(蘭腕)の経歴およびその家系について」(『医学史研究』71、1997年)
- 34・88・93・123・124・156)「愛媛県史 社会経済6 社会」(1987年)
- 48 青山英幸・遠藤一夫「資料紹介 山内徳三郎」福岡佐賀長崎三県下炭坑巡回報告書」(1884年4月)(1)「(技術と文明」9・1、日本産業技術史学会、1994年)
- 50 山形政一「宮城県における明治初期の医学教育と横山謙介」(『日本医学雑誌』21・3、1975年)
- 55・56 中山茂春「緒方洪庵が武谷裕亭(祐之)に宛てた書簡(安政4年12月20日)」(『日本医学雑誌』61・3、2015年)
- 59 0)「由利公正生誕一八〇年記念 笠原白翁生誕二〇〇年記念 歴史講座講演録」(勸歴史のみえるまちづくり協会、2010年)
- 78 藤田俊夫・半井英江「67秋山 半井 澄」(一八四七―一八九八)『日本医学雑誌』46・3、2000年)
- 79) 中山沃「緒方惟準伝」(思文閣出版、2012年)
- 81・90・101・171・172・217・228・236・238・258) 中西啓「長崎医学の百年」(『長崎医学百年史』長崎大学医学部、1961年)
- 99 田村省三「薩摩藩における蘭学受容とその変遷」(『国立歴史民俗博物館研究報告』116、2004年)
- 164「伯爵芳川顕正小伝」(芳川顕正伯遺業顕彰会、1940年)
- 169 板垣英治「加賀藩医学館に關係した新史料」(『北陸医史』36、2014年)
- 170 沢田敬義「香山竹山屯先生追悼の栞」(竹山初男、1939年)
- 185・186) 梶谷光弘「華岡鹿城末裔所蔵の「華岡門人録」について(4)」(『日本医学雑誌』59・1、2013年)
- 201「石川県史」第2編 藩治時代(上) 1928年石川県刊 1939年改訂、1974年石川県図書館協会復刻
- 209 池田文書研究会「池田文書の研究(42)」(2699) 明治3年4月(『日本医学雑誌』58・1、2012年)
- 220「「田原家住宅調査報告書」(須恵町教育委員会、2011年)
- 227 芝哲夫「綾部動史料について」(『適塾』30、1997年)
- 234 清水藤太郎「薬剤学の文献と解説」(『薬学図書館』11・4、1966年)
- 239・240 伊東尾四郎「藤野良泰と古川俊平」(『筑紫史談』27、1922年)

※管見に限りがあり、誤記を含む恐れがあります。受業生の情報と併せ、お気づきの点がありましたら、情報をお寄せいただければ幸いです。

※情報をお寄せいただき、表37戸塚隆庵の情報を更新しました(令和5年8月1日)。

【参考1】長崎精得館に学ぶ受業生の古写真



同左写真 人物説明（順天堂大学蔵）
画像のとおり上・右が欠けた状態で台紙に貼付けされ現存する。
参考として、判読を下に掲げた（ペンとみられる後筆を除く）。

【翻刻】上部・右部欠

・□は判読できない文字を示す
・（数字）は姓名録の番号を示す

■得館受業生十三士之肖像

央握脊梁骨者	松本銈太郎
方ヨリ之ヲ窺者	馬嶋濟治 ⁽⁷³⁾
側把籍□立者 ⁽⁷²⁾	山内徳三郎 ⁽⁴⁸⁾
前ナル者	北尾見輪 ⁽⁴³⁾
顎骨ヲ把者	近藤原賢 ⁽⁴⁵⁾
□者	熊谷亮海 ⁽³⁸⁾
方ニ在者	高桑道準 ^(59, 0)
斗ヲ看全身朦朧者	半井元瑞 ⁽⁷⁸⁾
側□視スル者	三寄宗玄 ⁽⁷⁹⁾
前ナル者	近藤介石 ⁽⁴⁴⁾
蓋ヲ観ル者	宇都野碩遵 ⁽⁴⁶⁾
台方朦朧者	戸塚柳三
手籍ヲ持スル者	山本芹香 ⁽⁸⁰⁾

【参考2】受業生橋本綱常の学問姿勢

（多納光儀談・明治四十四年十月）

長崎でボードイン氏の塾にて、私が和蘭の医方を習ったとき、橋本綱常先生は、高桑道準と云ふ人と、早くから同塾に居られたるが、其あとに矢張福井藩から半井保、三崎宗玄、山本良哉、岩佐純など、云ふ人も来られて、同塾で修行せられました、さてボードイン氏が病院にて、医学の講義をせらるゝ時は、いつもキンストレーキと云ふ人体の紙型を一々指さし示して講ぜらるゝが、橋本先生はいつか同塾を去つて、病院の看護室、即看護人の部屋住居となりました、何が故とも気付かざりしに、先生より看護人に頼んで同居させて貰つたので、其の夜になると、其のキンストレーキの腹部を開きて、内臓を取り出して彼の室に持ち来り、仔細に熟覧して、講義に聞ける要点を照合するを常とす、此に始めて此のキンストレーキを自由に見たさに、此の窮屈なる看頭室に同居したことが分り、今更の如く先生の学問に熱心なるに感じたことがあります。

『橋本左内言行録』橋本左内言行録刊行会、一九三二年、国立国会図書館蔵より「橋本家乗（七）左内の末弟綱常」

キンストレーキ（紙製人体模型）は幕末当時、長崎・福井・江戸における三体のみという。橋本や坦平がみたであろう長崎のそれは、ポンペが万延元年（一八六〇）にパリから取り寄せた、大変貴重なものであった。（石田純郎『江戸のオランダ医』三省堂、一九八八年）



長崎精得館受業生十三士〔写真〕（順天堂大学蔵）
左右の写真は一枚の台紙に貼られている。紹介史料の筆者である近藤坦平（介石）をはじめ、姓名録に記載の人物が写されており、貴重な史料である。